

2008年9月25日
株式会社日立製作所

サーバ仮想化機構Virtageを採用したシステムの検証・評価を支援する Virtageコンピテンス・センターを10月1日に開設



Virtage コンピテンス・センター(イメージ)

株式会社日立製作所（執行役社長：古川 一夫 / 以下、日立）は、このたび、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」シリーズのハイエンドモデル「BS1000」で提供する、日立独自開発のサーバ仮想化機構Virtage（バタージュ）^{(*)1}を採用したシステムの検証・評価施設を、東京都内にVirtageコンピテンス・センターとして2008年10月1日に開設します。

本センターは、VirtageとISV^{(*)2}/IHV^{(*)3}製品などの組み合わせによる仮想化システムの構築に必要な性能の見積りやチューニングの支援、互換性などの検証・評価を行うための施設で、10人体制の技術者で検証支援を開始します。日立のVirtage設計者やシステム構築技術者が直接検証を支援することで、設計開発部門で蓄積されてきたサーバ仮想化環境に関する最先端の技術・ノウハウも提供し、Virtageによる高信頼・高性能な仮想化システムの構築をサポートします。

*1 Virtage（バタージュ）： Virtual Stage の造語。仮想化（Virtualization）を新しいステージ（Stage）に導く製品であることを連想させる日立独自仮想化機構のブランド名

*2 ISV（Independent Software Vendor）： 独立系ソフトウェアベンダー

*3 IHV（Independent Hardware Vendor）： 独立系ハードウェアベンダー

近年、サーバ仮想化は、ITリソースの有効活用や運用性の向上に貢献する技術として急成長しています。しかし一方では、仮想化システム特有の検証・評価ノウハウの蓄積不足や、仮想化へのISV/IHVの対応、仮想化に伴う性能オーバーヘッド^{(*)4}、物理的なリソースを分割・共有することによる信頼性への影響など、企業が基幹システムに採用するための課題も明らかになってきています。

日立は、これらの課題に対する検証・評価を手軽に行うことができる施設として、本センターを開設しました。

*4 オーバヘッド： プログラム処理を進める際に付随的に発生する、プログラム動作に直接関係のない処理

Virtage コンピテンス・センターの特長

1. 多くのユーザーやパートナー、ISV/IHV が、手軽に利用可能

これまで日立は、Virtage と統合システム運用管理「JP1」をはじめとする日立製ミドルウェアや、ISV/IHV 製品などを組み合わせた仮想化システムの評価を、自社の設計開発部門で行って来ました。今回新たに、常設の Virtage コンピテンス・センターを開設したことで、より多くのユーザーやパートナー、ISV/IHV が手軽に検証・評価を行うことが可能となりました。

2. 迅速な検証・評価作業が可能

通常、仮想化環境における検証・評価の過程でシステム上に不具合が発生すると、原因の把握、問題の切り分け作業のために、該当する論理サーバと同様の環境を、物理サーバ上に再構築する必要があります。しかし本センターでは、このような場合でも、コンソール画面で仮想化機構を有効/無効にするだけで、論理サーバと物理サーバとを容易に切り換えることができるため、評価期間を短縮することができます。

今後、日立は Virtage コンピテンス・センターで行われる検証・評価の支援活動を通じ、Virtage と ISV/IHV 製品などを組み合わせた仮想化システムの構築を力強くサポートするとともに、高信頼かつ高性能な仮想化環境の提供など、Virtage の優位性を強力に訴求していきます。なお本センターでは、今後 2 年間で 50 社以上の検証・評価利用を見込んでいます。

Virtage コンピテンス・センター概要

設立	2008 年 10 月 1 日
所在地	東京都港区港南二丁目 16-1 品川イーストワンタワー 13 階 ハーモニアス・コンピテンス・センター内
人員	10 名 (開設時)
内容	・Virtage と ISV/IHV 製品などのシステム検証・評価 ・Virtage を使用したデモンストレーション ・仮想化システムでのトラブルシューティング、チューニングなどの技術支援 ・ネットワーク、ストレージを含めたセキュリティ、クラスタシステム、ディザスタ・リカバリなどのシステム評価・構築支援 ・任意構成でのシステムのサイジングや、信頼性・可用性などの検証・評価

また検証・評価施設の設置に先立ち、Virtage仮想化環境において、トレンドマイクロ株式会社の総合セキュリティソフトウェア「ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0」及び、「ServerProtect for Linux 3.0」を適用したシステムの動作確認を、共同で実施しました。今回、Virtageコンピテンス・センターの開設にあたり、トレンドマイクロ株式会社より下記のコメントをいただいています。

トレンドマイクロ株式会社 取締役 日本地域担当 大三川 彰彦氏

トレンドマイクロは、Virtageコンピテンス・センターの開設を歓迎します。

ネットワーク上の脅威が深刻化を続けるなか、普及が進む仮想化環境においてもセキュリティに対する意識は急速に高まっています。トレンドマイクロでは、Virtageコンピテンス・センターの開設に際し、企業向け総合セキュリティソフト「ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0」及び「ServerProtect for Linux 3.0」を使用した検証・評価を実施し、Virtage仮想化環境における動作を確認しました。弊社のセキュリティソフトとVirtage仮想化環境が連携することで、より多くのお客様が安心して企業情報システムを構築・運用可能になることを確信しております。

トレンドマイクロは、今後も日立製作所との協業を深め、企業のセキュリティ強化を支援してまいります。

日立サーバ仮想化機構 Virtage について

「BladeSymphony」シリーズのハイエンドモデル「BS1000」で提供している、日立独自開発のハードウェアによる仮想化機構です。物理サーバとの高い互換性を備え、効率的な運用管理、高い性能に加え、高信頼かつ高セキュリティな仮想化環境を実現しています。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/virtual/virtage.html>

他社商標注記

- ・TRENDMICRO、ウイルスバスター、TRENDMICRO SERVERPROTECTは、トレンドマイクロ株式会社の商標または登録商標です。
- ・その他、記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

関連情報

- ・統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」
<http://www.hitachi.co.jp/bds/>

本件お問い合わせ先

HCA センター 電話:0120-2580-12 利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00(土・日・祝日を除く)

以上

日立サーバ仮想化機構 Virtage の特長

日立のサーバ仮想化機構 Virtage は、メインフレーム時代から自社開発で培ってきた技術を活かした高信頼・高性能な仮想化機構であり、物理サーバとの高い互換性を実現しています。そのため、基幹システムでも安心・安全に使用できます。

1. ハードウェアと密に連携した高信頼な仮想化機構

「BladeSymphony」の高信頼なハードウェアと密接に連携することで、基幹システムでも利用できる仮想化環境を提供します。

- ・ Virtage ハイパーバイザー^(*1) がプロセッサの状況を常に監視しており、異常を検出すると直ちに SVP^(*2) と連携して保守サービスに自動通報します。
- ・ 異常が深刻な場合は、該当プロセッサを切り離すことで、安全な動作環境を確保します。
- ・ 物理サーバとの互換性が高いため、物理サーバ上で開発・検証されたソフトウェアを、論理サーバ上でも安心して使用することができます。

*1 ハイパーバイザー：サーバの仮想化を実現するハードウェア機構または制御プログラム

*2 SVP (Service Processor)：サーバの障害監視・管理機能の強化やネットワーク経由でのメンテナンスを実現するためのプロセッサ

2. 企業の基幹業務に適した高セキュリティなアーキテクチャを採用

メインフレームと同様に、仮想化環境でのハードウェア動作を一つ一つアーキテクチャに忠実に実現したことで、物理サーバとの互換性に優れた高セキュリティなアーキテクチャを提供しています。

- ・ 仮想化環境からハイパーバイザーへ干渉できるセキュリティホールが存在せず、ウイルス侵入などが困難です。初号機出荷以来、2年間セキュリティホールに関わる修正パッチ^(*3)もなく、堅牢で高セキュリティなシステムを実現できます。
- ・ I/O ドライバ^(*4)をハイパーバイザーやホスト OS にインストールする必要がないため、I/O ドライバに不具合が発生した場合でも、不具合を仮想化システム全体に伝播させず単一の論理サーバ内にとどめ、他の仮想化サーバの動作を継続できます。

*3 修正パッチ：プログラムの問題部分を修正すること。

*4 I/O ドライバ：OS が周辺機器を制御するために使うソフトウェアモジュール

3. ハードウェアによる I/O アシスト機構により、高性能を実現

日立が独自開発したハードウェアによる I/O アシスト機構^(*5)により、仮想化に伴うオーバヘッドを削減し、物理サーバと同等の性能を提供します。物理サーバとの性能比較^(*6)において、

- ・ ディスクへの書き込み/読み出し性能における比較で、最大100%
- ・ ネットワークの入力/出力性能における比較で、最大100%
- ・ オンライントランザクション処理システム^(*7)の性能における比較で、最大85%

の性能を実現しています。

*5 I/O アシスト機構：論理サーバが I/O 処理を行う際の論理アドレスと物理アドレスの変換、不正アクセス抑止などをハードウェアで支援する機構。本機構は、I/O モジュールと I/O アクセラレータによって構成されている

*6 ベンチマークソフトウェアによる、日立社内での測定結果で比較

*7 受発注管理システムを模擬的に再現した評価システム

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
